

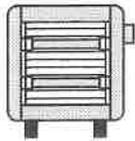


冬はやけどが増える季節 しっかり注意して安全に過ごそう

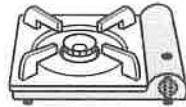
今年も早いもので、もう12月がやってきました。日ごとに寒さがつのる、これからの季節には、暖房器具や調理器具、熱い飲食物などによるやけどの危険が増えてきます。まずは、やけどをしないこと、そして、やけどをした時の対応を身につけ、安全に過ごしましょう。

あつく なる どうぐを おぼえる

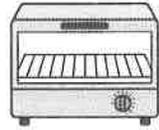
あつい ことが わかりやすい どうぐ



すたーぶ
ストーブ



がす
ガスこんろ



おーぶんとすたー
オーブントースター



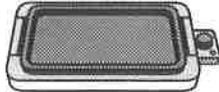
IHくっまんぐひーたー
IHクッキングヒーター



ゆわかし
ほっと
ポット



すいはんき



ほっと
プレート



あいろん
アイロン



とらいや
ドライヤー



へああいろん
ヘアアイロン

あつい ことが わかりにくい どうぐ

ひが ついたり あかく ひかる ものは あつそうだけど
みためからでは あつさが わかりにくい ものも あるよ。

保護者の方へ ストーブやガスこんろ、オーブントースターなど、炎が出たり赤く光ったりする道具は、熱さがわかりやすいですが、炊飯器や湯沸かしポット、ホットプレートなど、見た目からは熱さがわかりにくい道具には、注意が必要です。また、幼児に身近な道具ではありませんが、保護者の使うアイロン、ヘアドライヤー、ヘアアイロンなども、見た目では熱さがわかりません。使用後に冷ます時は、必ず子どもの手が届かないところに置いてください。やけどの対応は、とにかく十分に冷やすこと。そして必要に応じて病院を受診しましょう。

あつい たべものや のみもの



あつさを たしかめてから
うつわに さわる。



たべたり のんだり する
まえに すこし さます。

やけどを して しまった ときは



すぐに おうちの おとなの
ひとを よぶ。



つめたい みずを ながして
しっかりと ひやす。



みずぶくれに なったら
つぶさないように する。



やけどが ひどい ときは
びょういんで みて もらう。

1月号では「人が集まる場所での注意」
について取り上げます。